令　和　４　年　度

事　業　計　画　書

学校法人　愛知享栄学園

目　　次

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・　1

Ⅱ　令和４年度基本方針　・・・・・・・・・　1～2

Ⅲ　事業計画書

1．　学校法人　・・・・・・・・・　2

2．　享栄高等学校　・・・・・・・・・　3～6

3．　栄徳高等学校　・・・・・・・・・　6～13

4．　享栄幼稚園　・・・・・・・・・　13～15

Ⅳ　収支予算の概要

1．　令和４年度当初予算（案）概要　・・・・・・・・・　16～22

2．　部門別財務比率　・・・・・・・・・　23

令和４年度事業計画書

Ⅰ．はじめに

ロシアによるウクライナ侵攻が、国際秩序の根幹を大きく揺るがし、原油などの資源価格高騰を通じ、世界経済に大きな影響を与えています。
一方、新型コロナウィルスの感染拡大は、なかなか収束の兆しを見せない中、中長期的にwithコロナで対応せざるを得ない状況となってきています。
教育界においても、これまで当たり前とされてきた教員と生徒の“対面による授業形態”のみでは教育が成り立たなくなり、ICT活用による教育モデルの構築など、新たな視点に基づく教育改革が進められてきました。
このような状況の中、当学園においてもオンライン学習への対応を始めとしたICT環境の整備を継続的に行ってきました。
新型コロナウィルスへの感染防止を図るため、登校時の校舎入り口での検温・消毒の実施、業者による施設の消毒作業を継続しています。
また、生徒、職員に対しうがい、手洗いの励行を徹底し、全職員による週１回の消毒作業を行うなど感染防止意識の徹底を、図ってきました。
このような状況の中、建学の精神「誠実で信頼される人に」を大切にしながら社会に貢献できる人材を育成する教育を実践し、「選ばれる学校（園）」の実現を目指してまいります。
令和４年度は、下記基本方針を掲げ、全教職員一丸となって取組んでまいります。

Ⅱ．令和４年度基本方針

１．基本方針

（１）建学の精神である「誠実で信頼される人に」に基づき、入学者一人ひとりを大切にし、面倒見の良い学園として、主体的で社会に役立つ人材を育む。
（２）各学校（園）が今まで以上に特色を出し、選ばれる学校（園）になることを、入試広報担当をはじめ全教職員が意識し、期待に応えられる教育の実践を目指す。
（３）少子化の中、入学生徒数の減少が懸念されるが、生徒数の確保、愛知県経常費補助金の制度変更に則した対応により収入の極大化を目指す一方、学園収入に見合った支出にするため、人件費をはじめとした経費の適正な配分を行うとともに、内部留保金の計画的な積み立てにより、財務基盤の安定化を目指す。
（４）築後38年を経過した栄徳高等学校の校舎建て替えについて、具体的な計画作成を始める。

（5）コロナ禍の中、生徒・教職員にとって安全な学習環境、執務環境を実現する。

2．経営数値目標

指　標	令和４年度目標値	令和３年度目標値
①　事業活動収支差額比率	1%以上	1%以上
②　人件費比率	75%未満	75%未満
③　管理経費比率	7%未満	7%未満
④　人件費依存率	160%未満	160%未満
⑤　基本金組入後収支比率	105%未満	105%未満
⑥引当特定資産繰入	学納金の 5%以上	学納金の 5%以上

Ⅲ．事業計画書

1．学校法人

1．財務

（1）生徒数に見合った受入態勢整備のため、人員・設備計画を検討します。

（2）栄徳高等学校の校舎が、築後 38 年を経過し老築化が進んでいるため、新校舎建替えに向け具体的な計画の策定を行います。

2．事務処理体制の改善

（1）前期に引き続き、事務処理力の向上、事務の効率化を目指します。
また、担当事務を変えることにより、互換性向上を図ります。

（2）職員の異動により部門毎の事務処理能力は向上しました。
引き続き外部研修の受講を奨励し、個々のレベルアップを図ります。
また、報告・連絡・相談の徹底により情報の共有化を図ります。

2．享栄高等学校

1．教育事業

（1）教育充実のための取り組み

「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切にし、自己実現を図ることができる教育を展開する。

「面倒見の良い学校」として、きめ細かく丁寧な教育をする学校、夢と感動のある学校、地域に評価される学校の３要素を目指す。

教育課程改訂に合わせて各コースを一新し、ＩＣＴ教育に取組めるよう教育環境整備を引き続き行う。

普通科・商業科・機械科の３科の特性を生かした学習の推進と共に資格取得の徹底を図る。

① 普通科：コア（旧栄進文理）コース　補習授業の内容を充実させ、生徒が主体的に考える内容を取り入れる。端末機器とロイロノートを有効活用していく。
コア・プロ（旧栄進選抜）コース　学習合宿を行い学力強化を図る。端末機器を活用した自学自習を通じて、探求力を身に付けさせる。

② 商業科：各種検定試験の合格者を増やすよう、教材を精選し学年をまたがった指導を行う。電子黒板と端末機器を連携させ、練習問題での共通した躓きなどを共有し理解を深める。

③ 機械科：“ものづくり”を柱とした実験・実習等の体験的学習指導の充実を図るため、教員の一致した指導を継続する。電子黒板と端末機器を連携させ、練習問題での共通した躓きなどを共有し理解を深める。ジュニアマイスタ技術顕彰制度を一つの指針として取り組む。

（2）自己点検と評価

① 年２回の研究授業週間と公開授業を実施する。

② 定期考査と課題テストに加え業者テストを採用し、入学してから卒業するまでの生徒の基礎学力の経年推移を確認する。

③ 年５回の研修会を通して行うテーマごとの意見交換で自己点検を行う。

④ 外部研修会に教員を出席させる。

⑤ 生徒の学習実態調査、生徒・保護者・近隣住民による学校関係者調査を実施し、その結果を分析又は参考にして学校運営・学習指導の改善を図る。

（3）学習支援の推進

① 学習規律を徹底し、生徒に「わかる授業」を展開して学習実績を上げる。

② 朝学習・補習・補充を行い、基礎学力の定着を図る。

③　年４回の土曜セミナーを開催し、生徒個々が興味のある講座に参加し、または講座を企画することで生徒の自己実現の一助とする。

④　生活・学習環境の公衆性衛生向上の徹底を図る。

（４）教育のレベルの向上

①　毎週の教科会議で、各担当の現状と問題点などの情報を共有し授業にフィードバックする。

②　研修係が主催する研修会に毎年のテーマを設定し、場合によっては外部講師を招いて研修・確認・評価を繰り返し行う。本年度も前年度に引き続き、端末機器と電子黒板の有効活用の仕方を探る。

③　大学や専門学校で校外授業を実施し、より細かな専門分野知識を身に付ける。

④　初任者、初任者Ⅱ、初任者Ⅲ、主任者の経験や職責に応じた研修を行う。

２．学生支援事業

（１）生活の支援

①　部活動や生徒会活動を積極的に推進し、その活動を通じて自主性・協調性を養うことで生徒間のリーダーを育成する。

②　年度当初から個人面談と保護者会を実施し、生徒の諸問題を学級にとどまらず学年や部活動を通じての指導に反映させていく。

③　相談室で相談員による生徒のカウンセリングを行い、保健室と担任及び学年と連携し、その問題解決につなげる。

④　登校下校時の生徒の安全を確保するため、最寄り駅からの数箇所で挨拶の奨励と立ち番指導を行う。

⑤　享栄同窓会及びＰＴＡからの奨学金制度の充実を図る。

⑥　運動奨学生・学力奨学生・特別奨学生を認定し、模範となる生徒の増加を図る。

（２）保護者の方々との協力関係の構築

①　従来の保護者会と学級懇談会に加え、年度当初に保護者会を行う。そのことによって担任と保護者の共通理解と協力関係を構築する。

②　ＰＴＡ活動を通じて、保護者が生徒との共有時間をもつことで学校教育への理解と支援の拡大を図る。

③　Microsoft 社の Teams の機能を活用に、生徒・保護者への連絡漏れがないようにする。

④　「学習の手引」「進路の手引き」を印刷し、全生徒に配布する。

３．教育環境の整備事業

① 機械科実習室のＰＣ及び周辺機器の更新
② ＨＲ教室にレール式プロジェクタ(電子黒板対応)の設置（２年目）
③ 瀬戸グランド照明のＬＥＤ化
④ 建物、施設、設備の管理の徹底（修繕）（継続事業）

４．地域連携・地域貢献事業

① 年４回「土曜セミナー」を実施し、地域の方々に講師や受講生として企画・参加していただき交流を図る。
② 地域の各種文化的行事に参加し、吹奏楽部やチアリーディング部の演奏・演技披露を推進する。
③ 生徒会を中心に瑞穂区の「ヤングサポーターみずほ」に参加。
④ 地域に定着した「街美ボラティア」に、生徒を中心に教職員一体となって参加する。

５．生徒募集・入試に係る事業

（１）生徒募集活動の強化

① 夏休みに行われる２回の体験入学会と10月下旬から行われる６回の学校説明会は、学校に触れるよい機会なのでその参加者の増加を図る。
② 秋の私学協会主催の「私学展」で、本校ブースへの訪問者数の増加を図るとともに、学校案内やポスター等での募集強化を行う。
③ 入試広報室員の担当地区で中学校長による連絡会を主催し、中学校の意見の集約と生徒たちの現況報告を行う。
④ 学校行事をふくめた活動や生活様子をＶＴＲに撮り、積極的なＰＲ活動を実施。募集要項の印刷製本。

（２）関係各所との連携

① 年間計画を作成し、中学校訪問を実施する。また、新入生はもとより２・３年生の近況報告等も行うことで情報交換する。
② 各地域の私塾に出身生徒の資料を持参し、広報活動を含めた募集活動を展開する。
③ 警察署・消防署・区役所等への挨拶をし、地域との連携を強化する。
④ 就職先及び進学先の範囲拡大を目指し、情報収集や連携を強化する。

６．進路支援事業

① 「進路の手引き」を製本し、支援体制を強化する。
② 推薦入試枠等の拡大のため、大学訪問を強化する。

③　面接指導や論文指導等を教職員で分担し、マナーや規律を学習させる。

④　インターンシップを段階的に実施し、職業観の育成、積極的な進路選択による学習意欲の向上、社会人としてのマナーの習得を図る。

⑤　ハローワークや企業の協力を得て、進路説明会等を開催する。

7．その他

①　部活動の強化をはかり、スポーツを通じて校名の浸透を促す。

②　通学経路の地下鉄構内の案内板や車両内放送等を利用して、本校の認知度を高める。

3．栄徳高等学校

1．教育事業

（1）教育充実のための取り組み

①愛知享栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓として、国際社会で活躍する生徒の育成を目指す。

《目指す学校像》

・夢を実現させる学校

・豊かな人間性を培う学校

・健康な心身を育む文武両道の進学校

②常に明確な目標をもち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力・体力、幅広い知性を身につけさせる。

③具体的な目標（栄徳五訓）を掲げ教育活動を実践し、生徒の育成に努める。

《栄徳五訓》	《目指す生徒像》
一　常に目的意識を持とう。	・自分の夢に向かって邁進する生徒
一　感謝の気持ちをこめて挨拶しよう。	・互いを認め、尊重し合う事の出来る生徒
一　学習、スポーツに頑張ろう。	・学習・スポーツに頑張る日に焼けた秀才
一　責任ある行動をとろう。	・何事にも真剣に事に当たる生徒
一　栄徳生としてプライドを持とう。	・自分の考えを持ち、表現できる生徒

④ＰＤＣＡサイクル〔Plan（計画）Do（実行）Check（評価）Action（改善）〕を機能させるため、計画書、報告書、評価・改善書を提出し、管理職面談を実施をする。

⑤栄徳の教育システムが常に改善されるように、運営委員会をはじめ各種会議の活性化を目指す。そのために一人ひとりに配布されるPCを利用して目標の明確化と情報共有の迅速化を図る。

⑥「栄徳イノベーション２」の実現に向け、１年次から１年間イギリスに留学をする国際言語コースとスポーツを中心にしたカリキュラムで専門的な知識や技能を修得する人間スポーツコースの新設、さらには、学習に特化した合宿所の新設により、多様な教育の充実を図る。

⑦教育の一層の充実を図るために、生徒の自主性・協調性を育むことに配慮したきめ細かな学習指導で、学力の向上と進路実績の躍進を目指す。総合進学コースでは「総合的な探究の時間」を「天翔の時間」とし、課題解決方法を学びながら、自分史の作成を最終目標とする。

⑧図書館への来館者数の更なる増加と読書習慣の定着を目指し、情報提供の工夫、委員会活動の充実、読書感想文指導の改善で読書に親しむ環境づくりを進める。更に、本校の目指す図書館理念を明確化し、校舎建て替え計画に備える。

⑨教育活動への信頼を得るため地域社会の様々な要請を受け止めながら、前例にとらわれず挑戦する姿勢を第一とする教員の育成に努める。そのために、各種研修の在り方を工夫するとともに、特に若い教員が自身の使命感を感じられるように配慮する。

（２）自己点検と評価

①保護者の意見や地域からの要請に耳を傾け、生徒・保護者・教職員を対象とした「学校アンケート調査」、教職員による自己点検と学校評価を実施し、次年度の学校経営に反映させる。本年も「学校アンケート調査」の中に教科ごとの評価を加え、教科としての自己点検と分析を丁寧に行う。

②校務分掌組織ごとに明確な目標（できる限り数値目標）をもって業務の見える化を遂行し、年２回の定期的な振り返りを基に調整改善を図る。本年は各分掌の具体的目標の設定を早めに行うとともに、新たな視点で業務の見直しができるような機会を設けて、成果が確実に上がるようにする。

③授業参観、学級懇談会、保護者会のみならず、日常生活の中で、学校に届く保護者や生徒の声を真摯に受け止めるため、迅速な報告と丁寧な情報共有を行う。

④年度末に各分掌、各教科で年度当初の目標に基づいた総括をして次年度に備える。

（３）学習支援の推進

①落ち着いた活気のある授業を展開し、生徒一人ひとりの前向きな参加を促す。本年も特にICT教育の実践に力を入れ、生徒の学ぶ意欲を育てることを目指す。

②生徒一人ひとりへの丁寧な指導で、各自が夢と目標を持ち進路希望の実現を図る。特に課題の提出後あるいは各種指導後の評価を丁寧に行い、生徒へのフィードバックに努める。

③各コースに応じたクラス編成と教育課程の着実な実践を通して、学力の向上を図る。

・令和４年度は１年はSuper文理クラスを２クラス、選抜クラスを３クラス、進学クラスを６クラス、新設の国際言語クラス、人間スポーツクラス１クラスずつを予定している。２年はSuper文理クラス２クラス、選抜文理クラス１クラス、国際言語クラス１クラス、進学クラス８クラスを編成する。３年は選抜クラスが２クラス、他は２年と同様で、全３７クラスを予定している。

・コース、クラスが多岐に亘るので補習の形態をクラス単位の補習と、講座制の補習を展開する。また理科や社会の補習を強化することを目指す。

・中学校での学力が不足している１年生を対象にデジタル教材によるリメディアル講座（補習による学び直し）を開講し、本校での学習活動が円滑に進むようにサポートする。

④新設される合宿所を有効活用し、これまで以上にきめの細かい指導をすることによって、国公立をはじめとする生徒の進路希望実現を図る。

⑤Super文理クラス・選抜文理の３年生を対象に実施する、大学入学共通テストおよび二次試験に向けた特別時間割を改善するとともに、外部講師による補習を実施して、更なる進学指導の充実を図る。

⑥１年選抜クラスの英語表現Ⅰの授業は同時開講の習熟度別授業を展開し、早期から国公立大学受験者の増員を図る。また、２年の選抜文理クラスの英語表現Ⅱで１クラス２講座、３年の選抜文理クラスの英語表現Ⅱで２クラス３講座の習熟度別授業を展開する。

⑦３年Super文理クラス及び選抜文理クラスの文系生徒を対象に学校設定科目（化学基礎演習、生物基礎演習、地学基礎演習のうち２科目選択履修）を設けて、国公立受験対策をする。

⑧全校英単語コンテストを夏期休業中の登校日に、基礎学力コンテスト（国・数・英）を年度末に計画し、意欲の喚起とスキル的学力の向上を図る。

⑨学習支援ソフト(Teamsやスタディサプリ及びClassi）を全生徒に登録してもらい、デジタルコンテンツの活用によって、生徒各自の学習が継続的にできるように指導を行う。

（４）教育のレベルの向上

①年間を通して行う教員研修が日々の授業実践につながるように一人ひとりの教育目標を明確にさせ、校長面談で発表できるようにする。

②「大学入学共通テスト」の分析を各教科で行い、今後の対応について検討すると共に、思考力・判断力・表現力を育む学習指導方法の研鑽に努める。

③主体的・対話的な学習方法や更に深い学びを可能にする授業研究に努め、魅力ある授業の展開を図る。本年は一年生全員がタブレットを購入するため、特に授業展開の中にICT教育を取り入れる試みを重点として年２回研究授業を行う。

④現職教育を通して正しい教育観を身につけ、教員としての資質の向上を図る。そのため、いじめ体罰防止講話をはじめ全教員の研修会を計画的に実施する。

⑤初任者研修会および２年目３年目の教員研修会を毎週実施し、教師力の向上に努める。また、学園と連携した宿泊研修を夏期休業中に行う。

⑥グローバル化に対応するため、韓国、ニュージーランド、及びアメリカの姉妹校との生徒交流を着実に進めるとともに、英語教員に留まることなく教職員の英語資格検定試験の受験を奨励するため本校独自の奨学制度を実施する。

⑦学外での研修会等への参加で教育力向上に努め、教職員の力量を高める。

２．生徒支援事業

（１）生活の支援

①生徒それぞれの悩みを受け止め、一人ひとりが尊重され、居場所のある学校づくりを目指す。特に欠席しがちな生徒に対するフォローを丁寧に行い、抱えている悩みが相談できるような関係づくりを行う。

②新しい共生社会を尊重できる生徒を育てるため、環境、食育、男女共同参画、自殺防止等を目的とした講演会を開催する。

③様々な学校行事や特別活動を通して生徒の自主性や協調性を育む。特に文化祭・体育祭での生徒の関わり方を見直し、生徒の自主性を大きく伸ばす工夫をする。

④きめ細かい生活指導を通じて、県内で最もマナーの良い学校を目指す。

⑤自律心を育む教育の推進のため、寄付で社会貢献を目指す「マディーの日」を実施する。

⑥“いじめ”の防止、早期発見のための措置、相談・支援等を迅速に行う。

⑦交通安全指導の徹底、性犯罪防止、サイバー犯罪防止、薬物乱用防止等、学内だけでなく社会生活を営む上での安全指導にも取り組む。

⑧年間計画に基づいた個人面談を通して、生徒の学校生活や学習指導をサポートし充実した毎日が過ごせるように努める。

⑨不登校生徒への速やかな対応（情報共有・支援の役割分担・外部機関との連携）を行う。

⑩特別支援教育の推進のため、校内委員会を設置し支援体制を構築する。

⑪カウンセラーを配置して、生徒が気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒の心理的な発達を援助する。

⑫外国籍の留学生を積極的に受け入れ、多様な価値観が共有できる環境づくりをする。

（２）保護者の方々との協力関係の構築

①ＰＴＡ活動や保護者会、進路説明会等の様々な機会を設け、協力関係の構築に努めるとともに、文化祭・体育祭等での生徒の日常に接することができる学校行事への参加を呼び掛ける。

②ＰＴＡ委員会活動(広報専門委員会、生活指導専門委員会、部活動専門委員会)を通して、保護者の方々との連携を図る。

③授業参観や学級懇談を通して、保護者の方々の率直な意見を集約し反映できるように努める。特に公開授業の感想を丁寧に分析し、職員全体で授業改善に努める。

④保護者宛文書（教育相談の案内、図書だより、生活指導だより、保健部だより、授業料補助の案内等）を分かりやすくするとともに、Classi 等を利用したメール配信を行い保護者との連絡の徹底に努める。

⑤保護者を対象にしたアンケート調査を基に、学校の改善に努める。

⑥希望される保護者には、保護者を対象とした教育カウンセリングを実施し、学校と家庭の協力の下で生徒の育成を図る。

３．教育環境の整備事業

①全専任及び常勤教員へのノート PC 配布で、教育環境の充実と事務作業の効率化を図る。

②教員用のＰＨＳの有効活用のため、所持・管理の徹底と定期的な保守点検を行う。

③一年生全員がタブレットを購入するのを機に、ＩＣＴを活用した学習を進めるため、サポート体制の更なる充実を図る。

④職員室内デスクトップ PC が利用しやすいように定期的な整備を行う。ＯＳのバージョンアップなども計画的に行う。

⑤現在、生徒の出席管理・成績管理・各種証明書発行等のデータ処理は教務システムによって滞りなく行われているが、新教育課程に対応した設定の変更を検討していく。

⑥安心･安全で美しい教育環境を整えるため、日常的な保守点検を着実に行う。清掃等は引き続き専門業者に委託するとともに、感染症予防のための機器や消毒用品を点検・整備していく。

4. 地域連携･地域貢献事業

①進路指導として実施するインターンシップにおいて地域の企業との交流を進める。

②地域の要請に基づく学校開放（グランド・体育館等）を積極的に行う。

③医療センターと連携し、救命講習（心肺蘇生法の習得とＡＥＤの取扱い）を実施する。

④社会福祉協力校として、地元と連携して地域主体の諸活動に参加する。

⑤トヨタ博物館など学校周辺の施設設備の利用の促進を図ることで、日常的に互に協力できる良好な関係づくりをする。

⑥地元のＮＰＯ法人への寄付活動に生徒が参加することで、積極的な地域貢献をする。

⑦クリーンアップキャンペーン（清掃奉仕活動）を通して、地域への愛着と自発的な奉仕の精神を育む。

⑧愛知県立芸術大学との芸術文化交流事業を継続的に進める。

⑨吹奏楽部・ボランティア部・ダンス部・生物部他、部活動では地元との繋がりを大事にした活動を行う。

５．生徒募集・入試に係る事業

（１）生徒募集活動の強化

①引き続き４２０名程度の生徒確保ができるように募集活動を行う。

②新装されたホームページをさらに改善し、広く新しい情報を発信していく。特に「栄徳イノベーション２」に関わる新教育課程の広報に重点を入れる。

③Super 文理の推薦受験者数の増大を図るため、学習合宿所を新設し、集中的に学習できる環境を整える。また、授業料軽減等の公的補助とは別に、授与型の奨学金制度を導入し、入学者の増加を図る。

④文化祭等の行事に近隣の中学生を招待し、生徒の活気や温かさをアピールする。学校見学会等においては教員によるパワーポイントの資料やビデオ等の作成だけでなく、生徒自身が話したり活躍する場を積極的に設けて、学校の魅力を伝える。

⑤中学生や保護者を対象とした学校見学会や説明会の他に、学習塾対象の学校説明会を学外場を設けて実施し、本校の魅力や特色、教育内容を広く紹介していく。

⑥学校説明会へ参加できなかった生徒で急遽本校への進学を検討をしている生徒のための個別相談会を引き続き実施する。

⑦学校行事や各説明会に参加した生徒への最大の励ましと事後フォローを大切にし、面倒見の良さをアピールする。

⑧受験生の動向を客観的につかむため受験生の併願校アンケートを実施する。

⑨入試業務を Web 化することで、業務の効率化を図り、人的ミスをなくす。ま

た、ネット出願システムのメール配信機能を活用し、いろいろな情報をタイムリーに提供する。

（２）関係各所との連携

①中学校・塾だけでなく競合相手となる他の高校の情報データをできる限り速やかに収集し、把握・蓄積した情報分析から戦略的な募集活動を行う。

②中学校との連携は広報職員による在校生の詳細な近況報告のほか、本校の様子を綴ったミニ新聞を作成し、配布することで教育活動の理解を求める。

③中学校・塾との連携は単にそれぞれの説明会の参加者を主眼とするだけではなく、生徒と直接関わっている担任や塾講師との関係を緊密にしていく。

④帰国子女を含めた多様な生徒の受け入れを見据えて、関係各所との連携を密にする。

⑤長久手市・警察署等と連携して取り組む教育活動を新聞社等に積極的にＰＲする。

⑥藤が丘駅や長久手イオンモール等で効果的な宣伝を実施する。

⑦地元のケーブルテレビと連携を図り、部活動やその他の教育活動を放映してもらう。

⑧生徒の製作した好きな本のＰＯＰ（広告作品）を有名書店で展示してもらうことで本校をＰＲする。

６．進路支援事業

（１）進路指導の充実

①自己実現のための進路観や職業観を育成し、進学・就職指導を具体的に推し進めるために、「進路の手引き」の内容の再点検と充実を図る。また次年度以降に実施される新しい「総合的な探究の時間」の活動をキャリア教育に位置づけて展開する。

②インターンシップを実施し、職業を体験することで社会に対するものの見方を養い、進路意識と学習意欲の向上を図る。

③国公立大学３０名の目標到達を図るため、基礎基本の徹底と最後まで受験を諦めない姿勢を育てる。そのために個々の生徒が抱える問題に適切に手を差し伸べ、モチベーションが継続するような指導方法を検討する。

④Super 文理クラスでのクラス単位の進学補習（特別時間対応も含む）と、講座制進学補習を併用して、より効果的な進学補習体制を確立する。さらに、新設される合宿所を有効活用し、進学実績の向上に努める。

⑤Super 文理クラスでの進学補習においてスタディサプリ等オンライン教育を充実させる

⑥大学･短大･専門学校ガイダンス、キャンパスライフ体験学習等の進路行事を利用して進学に対するモチベーションを高める。

⑦大学との高大連携プログラムを展開して、大学の教育研究に触れる機会を促進し、大学で学ぶ意義の理解を深め、進学指導・学習指導に役立てる。

（2）進路情報の共有化

①学校としての進路指導方針を、担任が良く理解して進路指導に臨めるように、学年主任と進路指導部が連携を密にする。

②クラス・コースごとの生徒情報と入試情報を、担任と担当者だけではなく学年全体・学校全体で共有し、検討することで進路目標を達成することに努める。

③学年ごとの進路ガイダンスを実施し、生徒に的確な進路情報を提供する。

④保護者を対象とした進路説明会を実施し、進路情報を提供するとともに家庭での進学支援を求める。

⑤基礎学力診断テストの分析検討会を実施し、生徒の学力の現状と問題点を洗い出し、学習指導に反映させる。

⑥入試研究会等に参加し、最新の入試情報を入手し生徒に提供できるように努める。

⑦現在生徒が受験している模試の活用状況を検証するとともに、本校の生徒のニーズに応じた模試受験の在り方を見直す。

7．その他

①「栄徳イノベーション２」を踏まえ、社会や時代の要請、地域や中学校の要求に応える「新しい学校づくり」に向けて挑戦をしていく。

②教職員の「働き方改革」の視点から、教育内容の精選と労働生産性の向上を目指す。

4. 享栄幼稚園

1．教育事業

（1）教育充実のための取り組み

「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げている本園は、この理念に基づく教育方針、重点目標を発達段階に応じて取り組んでいく。その中で、集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力の５つの力を育てるため、計画的な指導をする。また、子どもたち、保護者、地域から信頼、親しまれるよう全教職員の資質向上のため日々研鑽努力する。

（2）自己点検と評価

評価項目（チェックリスト）に沿って学期毎に自己点検、自己評価を行い教師自らが客観的に指導や関わりを省みる。目の前の子どもの姿に学び、同僚の仕事ぶりや言葉を注視し、時には保護者や地域の皆さんの視線に立って子どもたちを見つめみる。そして保育環境や保育教材、素材についても工夫しながら学び続けていく。

（3）学習支援の推進

絵本などの蔵書を増やし、本にふれる機会を増やす。

生活環境の公衆衛生の更なる向上と施設のメンテナンスに努める。

（4）教育のレベルの向上

教職員自身が最大の教育環境であると一人ひとりが自覚し日々の研鑽に努める。外部講師による園内研修を行う。外部研修参加や他園へ見学の実施。そして何よりも先輩教員から若手教員が学びとる環境をつくる。

2．園児支援事業

（1）生活の支援

子どもの家庭環境、生活環境を把握し、一人ひとりの理解を深める。特別支援の必要性がある場合は園医や心理士と相談し支援をする。育児相談やカウンセリングが受けられる体制はいつでもとれるようにする。

（2）保護者の方々との協力関係の構築

ＨＰやメールマガジンを有効活用し、園だより、クラスだよりを含め園からの発信をできるだけ多くして、園の教育活動と子どもの様子を詳しく伝える。母の会が行事に参加し、援助することにより、園理解に繋げる。

3．教育環境の整備事業

新園舎の学習・生活環境を活かした本園ならではの「学習スタイル」「遊びスタイル」の確立を目指す。

4．地域連携・地域貢献事業

11月のバザーで保護者や近隣住民とのふれあいの場を作る。

土曜日の園庭開放（毎月開催）を実施する。

5．園児募集・入試に係る事業

（1）園児募集活動の強化

６月から７月にかけて 10 回程度見学会・説明会を行い次年度園児募集を計る。10 月受付とする。７月には「みんなの広場」を開催し教職員が未就園児といろいろなコーナーで楽しく過ごし、幼稚園や教職員に親しむ１日にする。また、保護者に対しては相談コーナーを設け質問や悩みに答える。募集に関して現在最も大切なのは、２歳児のプレ教室であるため、園児募集は１年前の未就園児教室募集が重要である。９月に見学会・説明会を行い 11 月受付とする。

（２）関係各所との連携

問題を抱えている子どもが増えていることから、問題に応じて、専門家の意見を聞く。園医、心理学博士、児童相談所等との連携を密にして、子どもの安全・幸せの確保に務めていく。瑞穂警察署、消防署の皆さんの協力を得て、交通安全・防犯・防火の教室を開く。そして、園児たちの安全意識を育てる。

６．進路支援事業

幼・保・小連携の推進のための支援のあり方を検討する。

①幼・保・小連絡会会議にて入学前に個々に育ちの様子を伝えていき、学校からの話も伺い就学の準備をする。

②地域の小学校を訪問し、遊びに行き学校に親しみを持ち、不安のないようにしていく。

７．その他

新園舎の環境を十分に活かした享栄幼稚園の教育ビジョンを構築していく。

新園舎に合わせた防災・防犯態勢を整える。

以上